

【発表研究成果】

■ 板倉キャンパス研究シーズ

No.	タイトル	研究者
1	第三のイオンで動くハイブリッド・ナノマシン	生命科学部 生命科学科教授・伊藤 政博
2	マイクロチップ培養による細胞応答の計測	生命科学部 生命科学科教授・金子(大谷) 律子
3	胚性幹細胞におけるROCK阻害剤の影響	生命科学研究科・上芝原 佑 生命科学部 生命科学科教授・川口 英夫 バイオナノエレクトロニクス研究センター・清水 範夫
4	多能性幹細胞からの神経細胞及び筋肉細胞への分化誘導	生命科学研究科・中村 麻衣 バイオナノエレクトロニクス研究センター・清水 範夫 生命科学部 生命科学科教授・川口 英夫
5	Development of an evaluation method that analyzed the motor performance among elderly people using handwriting features	生命科学研究科・石崎 智也 筑波大学医学医療系教授・安梅 勅江 生命科学部 生命科学科教授・川口 英夫
6	分化神経細胞による回路形成とその電気的特性	生命科学研究科・佐藤 優樹 生命科学部 生命科学科教授・川口 英夫
7	C2C12細胞の培養上清を用いたiPS細胞の分化誘導	生命科学研究科・進元 敬好 生命科学部 生命科学科教授・川口 英夫
8	アクチン結合蛋白ドレブリンの脳内機能:2つのアイソフォームの違い	生命科学部 生命科学科教授・児島 伸彦
9	スキムミルク中のメラミンを測る・他:表面増強法	生命科学部 生命科学科教授・竹井 弘之
10	放射線抵抗性細菌のDNA修復機構に関する研究	生命科学部 生命科学科教授・鳴海 一成
11	キク科貯蔵多糖をもちいた細胞標的型薬物送達システムの創成	生命科学部 生命科学科准教授・長谷川 輝明
12	イネの玄米サイズを増加させ収量を向上させる遺伝子(TGW6)の発見	生命科学部 生命科学科准教授・廣津 直樹
13	Conventionality and Spirituality in <i>Jane Eyre</i> .	生命科学部 生命科学科講師・江口 智子
14	下水からの生物学的りん回収に関する基礎検討	生命科学部 応用生物科学科教授・角野 立夫
15	低水温下での下水処理向けアンモニア除去技術	
16	窒素処理用のアナモックス担体投入型循環変法	
17	C型肝炎に対する薬効の判別法について	生命科学部 応用生物科学科教授・高崎 茂
18	コレステロール値を測る酵素	生命科学部 応用生物科学科教授・道久 則之
19	アシタバ脱分化培養細胞におけるフェニルプロパノイド類の生合成調節	生命科学部 応用生物科学科教授・山本 浩文
20	Strigolactones regulate leaf senescence in response to phosphorus deficiency in rice	生命科学部 応用生物科学科准教授・梅原 三貴久
21	極限微生物ー特に好塩性・耐塩性微生物の探索と利用	生命科学部 応用生物科学科准教授・高品 知典
22	キッズサイエンススクール(親子の食育体験講座)	
23	超好熱菌	生命科学部 応用生物科学科准教授・東端 啓貴
24	極限生命材料工学研究室	
25	I.微生物の新規スクリーニング法の構築	生命科学部 応用生物科学科・渡辺 文寿 生命科学部 生命科学科准教授・三浦 健
26	II.バッタの糞便からの単離したセルラーゼ生産菌の研究	生命科学部 応用生物科学科・大久保 台樹 生命科学部 生命科学科准教授・三浦 健

【発表研究成果】
■ 板倉キャンパス研究シーズ

No.	タイトル	研究者
27	北極高緯度土壌圏における二酸化炭素・メタンフラックスと土壌微生物群集の地点間比較	生命科学部 助教・天野 千恵
28	都市生態系における企業緑地の役割: 全国8事業所での緑地/生物相調査~簡易調査ツール性能調査~	生命科学部 助教・岩淵 翼
29	竜巻発生時における前兆現象とLFD変動パターンの特徴について	食環境科学部 食環境科学科教授・上條 賢一
30	プロテオーム技術の産業への応用(品質管理から保証まで)	食環境科学部 食環境科学科教授・佐々木 和生
31	牛乳工場での細菌検査を想定したVRBG培地の性能比較	食環境科学部 食環境科学科教授・佐藤 順
32	植物/バイオによる有用植物の迅速大量増殖法の確立および植物の機能性	食環境科学部 食環境科学科教授・下村 講一郎
33	すりみ発酵食品の試作	食環境科学部 食環境科学科教授・吉江 由美子
34	食品流通経済研究室 研究実績	食環境科学部 食環境科学科教授・野島 直人
35	生物発光研究の過去・現在・未来	食環境科学部 食環境科学科教授・和田 直久
36	組み立て式紙飛行機を用いた紙飛行機遊びが女子大学生の気分・ストレス度と与える影響	食環境科学部 食環境科学科准教授・高橋 珠実
37	<i>Comic Madness, or Tragic Mystery, That is the Question</i> (Eihosha,2013)	食環境科学部 健康栄養学科教授・五十嵐 博久
38	Does zinc supplementation affect mood states in young women?	食環境科学部 健康栄養学科教授・澤田 孝子
39	栄養アセスメント情報を活用した給食献立の自動作成システムの構築	食環境科学部 健康栄養学科教授・辻 ひろみ
40	農産物・食品の抗酸化能の測定法	食環境科学部 健康栄養学科教授・林 清
41	ハッシュョウマメ(ムクナ)のL-DOPAの制御法および調理品の嗜好性(Physicochemical properties and the amount of L-DOPA of cooked Hasshomame(Mucuna))	食環境科学部 健康栄養学科准教授・飯島 久美子
42	食塩中のリチウムイオン耐性好アルカリ性細菌のゲノム解析	食環境科学部 健康栄養学科准教授・藤澤 誠
43	電磁場と化学物質との複合曝露による変異原性	食環境科学部 健康栄養学科准教授・宮越 雄一
44	運動時における静脈血管調節機構に関わる要因ー高位中枢からの指令と末梢からの反射性制御の役割ー	食環境科学部助教・大上 安奈
45	学童期・思春期における糖尿病罹患患者の栄養管理	食環境科学部 健康栄養学科助手・小谷 円花
46	介護予防事業(一次予防事業)に参加する都市部高齢者のヘルスリテラシー特性	食環境科学部 健康栄養学科助手・熊谷 直之
47	エタノール誘起性胃粘傷害に対するウコンの効果	食環境科学部 健康栄養学科助手・佐藤 かおり
48	健康栄養学科における特色ある教育内容プログラムの実際	
49	大学生女子バレーボール選手のパフォーマンス向上のための栄養サポートの検討	食環境科学部 健康栄養学科助手・早川 大
50	大学生における食習慣・栄養素摂取量と骨量との関連	食環境科学部 健康栄養学科助手・峰松 明也子

【発表研究成果】

■地域活性化研究所 研究活動成果

No.	タイトル	研究者
51	渡良瀬遊水地および周辺の自然・生物に関する調査研究と学習に関する組織化	国際地域学部 国際観光学科教授・薄木 三生
52	商工会議所と観光協会の連携による地域観光振興	国際地域学部 国際地域学科教授・竹内 章悟
53	社会環境の激変に対応する渡良瀬遊水地周辺地域の地域活性化活動に関する研究	国際地域学部 国際地域学科教授・竹内 章悟 国際地域学部 国際観光学科教授・薄木 三生
54	館林市夏の「涼しさマップ」ワークショップ	総合情報学部 総合情報学科教授・小瀬 博之

■川越キャンパス 研究成果

No.	タイトル	研究者
55	ナノメディスン研究室	理工学部生体医工学科教授・吉田 善一
56	低歪・低ノイズ・低消費電力を実現したスイッチングアンプ	理工学部電気電子情報工学科准教授・佐野 勇司
57	老眼による見えと視力を改善できるLED照明	
58	太陽電池を集積した電池交換不要な集積回路	総合情報学部総合情報学科教授・堀口 文男
59	各種センサー(磁場、力、温度)を用いた新機能ガジェット	総合情報学部総合情報学科教授・椿 光太郎
60	簡易型 液体微粒子 粒径測定装置	

■朝霞キャンパス 研究成果

No.	タイトル	研究者
61	ラット脛骨における荷重増加に伴う骨吸収過程の変化に関する研究	ライフデザイン学部健康スポーツ学科教授・大迫 正文
62	発育期ラット脛骨の関節軟骨および骨端板の構造的特徴 —軟骨下骨と一次海綿骨の骨形成に及ぼす荷重低減の影響—	
63	ラット脛骨の筋付着部位における構造と強度の関連性	
64	短期間不動後の運動負荷に伴うラット脛骨海綿骨の構造変化に関する研究	
65	運動負荷に伴う発育期ラット腓腹筋付着部の線維束骨と海綿骨の構造変化	
66	「健康支援での地域社会貢献」と「学生教育」の融合	ライフデザイン学部健康スポーツ学科准教授・岩本 紗由美

■白山キャンパス 研究成果

No.	タイトル	研究者
67	東アジアにおける仏教の受容と変容—智の解釈をめぐって—	東洋学研究所・渡辺 章悟
68	仏教思想に見る日本・中国・韓国の共通性と差異	東洋学研究所・伊吹 敦
69	日本における先祖観の研究—古来の先祖観とその変容—	東洋学研究所・中里 巧
70	インドの死生観の研究—聖典・聖地・都市構造にみるインドの死生観—	東洋学研究所・橋本 泰元
71	国際井上円了学会の設立	国際哲学研究センター

※当日(11月29日(金))は、上記以外のテーマの発表も多数用意しております。